

鹿島市総合教育戦略会議（第5回） 議事録（概要版）

1 開催日時 平成27年10月1日（木）10時00分から11時42分まで

2 開催場所 鹿島市役所 3階 庁議室

3 出席者等

- ・法定構成員 樋口市長、田中教育委員会委員長、江島教育委員会教育長、中島教育委員会委員、木原教育委員会委員、田代教育委員会委員
- ・市長部局 藤田副市長、橋村総務部長、打上市民部長、大代総務課長兼人権・同和対策課長、橋村福祉事務所長、事務局（総務課職員 江頭、原田）
- ・教育委員会部局 染川教育次長兼教育総務課長、澤野生涯学習課長、藤家教育総務課課長補佐、永石生涯学習課長補佐兼文化スポーツ係長、竹下生涯学習課社会教育係長、加田生涯学習課主査、江島生涯学習課主査
- ・外部関係 なし
- ・傍聴 なし

4 協議又は調整した事項（確認事項含む。）

- (1) 第4回鹿島市総合教育戦略会議（9/1開催分）の議事録素案について
- ・議事録素案の内容を確認。

- (2) 学校以外での過ごし方（社会教育、放課後対策など）

5 出席者の発言のとおり

5 出席者の発言

司会：橋村総務部長

1 開会（橋村総務部長）

2 市長あいさつ

樋口市長 おはようございます。私からは今のところの経過だけちょっと話しておきます。この戦略会議の一つのポイントは今までの教育委員の会議の中に首長が入って色んな議論をするということが特徴ですが、その背景が市民の意見をできるだけ総合教育会議の中に、これから作られる大綱の中に反映をするということが一つの狙いとなっています。その材料を探すということと、私も保護者の皆さんが、学校、鹿島市の教育、教育委員会にどんな思いでいるのかということをして

非知りたいということで、各小中学校 9 校において懇談会形式で話をしています。概ね半分ぐらい済んでいます。一回りすれば、トータルとしての意見を披露できると思いますが、今日は今日でこれまでの色々なお話を申し上げることができると思っています。そういうことで、この戦略会議が狙う中身の充実、幅広い議論に答えていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

(田代新教育委員会委員の紹介及び本人からの挨拶)

3 確認事項

(1) 第 4 回鹿島市総合教育戦略会議（9/1 開催分）の議事録素案について

橋村総務部長 ありがとうございます。そしたらレジュメに沿って進行させていただきます。確認事項ですが、第 4 回鹿島市総合教育戦略会議の議事録案を事前にお送りしたかと思えます。御確認していただいたのでしょうか？（「はい」という発言あり）ありがとうございます。これをもって公表ということで進めさせていただきます。

4 協議事項

(1) 学校以外での過ごし方（社会教育、放課後対策など）

（大代総務課長説明 新教育委員会委員に対する法改正の概要、これまでの経過の説明。学校以外での過ごし方に関し、放課後児童健全育成事業、スポーツ少年団、部活動、通塾の状況、地域の子どもクラブ、社会教育事業などについて説明）

- ・話を聞く限りでは学校以外での過ごし方は、大きく分けて二つ。一つは学校の外になるので先生との距離感。もう一つは塾、クラブ活動についての学校、先生、父兄の関わり方が千差万別、その辺をどういうふう整理をしていくか。
- ・現実問題として各家庭や地域において濃淡がある。鹿島で一本化する時に非常に難しい、焦点を絞れるかどうか。
- ・学校外となったらそれだけ家庭のウエイトがそれだけ大きくなっていくのと同時に違ってくる。
- ・子ども達に聞いた話で、月曜から日曜まで、何かしらがあり、宿題もある、その子の本当の自分の時間帯はどこにあるのか。一方、何もしない子は何もしていない。子ども達の差は家庭に入ってみないと分からない。今の子どもは忙しい、あっちも一生懸命こっちも一生懸命で大変、本当に子どもと親との連携をとって、ちゃんと成し遂げられるのかと感じた。子ども達と交流をする中で、子ども達から教えられる部分や習う部分があって、一時のやすらぎを求めてうちに来ているのかとか思うが、

とにかく自分でできる範囲で頑張るとのことだけはいつも言っている。

- ・前提としてどう考えるか。少し運動をさせると言ったら、そっちの方を充実させるとなる。口出さなくていい、家庭にお任せしましょうというのであればそれでいい。この会議として鹿島市の子ども達、子どもの方から見て、何かしてやらないといけないという感じなのかどうか。隙間があるのだったら何かしないといけない。
- ・ゆとり教育なのか学力向上なのかというのがすごく曖昧だなというのが実感としてある。
- ・学校週五日制になっていった経緯がある。一つが公務員の週五日制が導入され、学校の方も段階的にそういう方向になっていった。もう一つは、昔が週 34 時間、一日 6 時間×5 日+4 時間、勉強だけでは厳しいじゃないか、もっと社会的な体験をさせた方がいいのではないかというようなことで、体験不足を補うということで時間を短縮して行ってゆりの時間というのが生まれ、社会体験とかやってきた。それが今度は 4 週 6 休制、そして最終的には週五日制ということで、その当時地域の方で受け皿を作ってくださいというのが始まった。公民館活動、生涯学習の方で受け皿を作ってくださいと。昔は社会教育関係の職員が公民館にもいたが、今はもういないという状態。今地域の方で受入れをどれくらいできるか、かなり限界があるのではないのかと思う。それを盛り返そうという国の施策もあるが、実際どれくらいやれるかといったらかなり厳しい状況もあるという感じはする。そういった方向性を作るかどうか。
- ・別の事をやらせようと学校に縛り付けて本だけ眺めてもしょうがないじゃないという話をしたけど、やっぱり今度は学力が向上しないと、こういう話になるかどうかということでしょう。その前提には、うちは学力が低いと思ひ定めないと学力向上という話にならない。これは父兄との話の中で、低いという話は聞くけど、どういうふうに低いのか知らないと聞く。低いなら低いでもいい人間としてちゃんとしていた方がいいという人と、ある程度のレベルに平均よりは高くないといけないという人がいる。自分達はキチッと何点と、どのくらい違うと言ってくれと、そうでないと子ども達にも言えない。もっと早く走れて言われたって、後 1 秒縮めろというなら努力できるけど、もっと早く走れと言われても、という議論はある。この中でそこをどのくらいハッキリ腰を決めて、後このくらいにはなろうと、そうすると今の位置を決めないといけないという議論はあると思う。
- ・低くても、個々人は自分の子どもがまあまあできればいいかと思っているところが多いような感じもする。
- ・何点は分かるけれども、自分がどこの位置にいるかというのが分からないので、そこまで学力向上と考えないのか。

- ・学力テストは学校平均と県平均との比較は個人個人ができるようになっている。
- ・あまり分からないというのもあるのか。
- ・学力テストの結果で学力が高い低いを一概に決めつけていいのかという基本的な問題。過去何年間かの傾向を捉えて、分析ができたらいいけど、目先の1年、2年の数字ということだけで一刀両断に捉えていいものか。
- ・その議論をしていくと、もうしない方がいいと、色んなデータや分析を教えなかったら、何のためするのかという話がある。したなら教えろという議論がある。
- ・高い低いとか言うから混乱するのであって、やったテストを見せて去年は何点と分析をしてくださいというやり方もある。あまり他所と比較してはいけないと言いながら、比較した結果を教えている、鹿島は低いと。
- ・他所と比較すればそういうのが出てくるから、その方が学力が上がるのかどうか。昔は順番が出ていたので頑張れよと言われていたけど、今はもうそういうことはしない。
- ・学力は学外とは切れない。やっぱり学外で塾に行っている人は行ってない人より高い。ただ塾に行く行かないを制約する訳にいかない。
- ・学校から帰ってクラブ活動、部活動、塾、ならいごと、趣味の追及、それ以外の子どもに対してはやってやらないといけないのかなと思う。マイナス面に動いてしまうということを防ぐような対策をとってやるのもいい、塾の講師を雇って教えている、あるいは学校の宿題を見てくれているところもあったりする、そういうところまでするのか。
- ・そもそも学力上げないといけないと皆思っているのかという話から始まる。
- ・なるべく平均よりも上と単純に考えるようだ。佐賀県の位置が全国平均より低い。佐賀県の中で5つの教育事務所のエリアでは三神と佐城地区が良くて、その次に杵西地区がきて、その次に藤津がきて、その次に東松浦という、大体このパターン。
- ・それを変えないといけないと思うか。
- ・高校への進学も影響していると思う。福岡に近いところは向こうの方を狙ったり、こちらの地区ならまず行けるところ行きやすいところを考える。何となく、どがんないとなつとやなかろうかという感覚が生まれやすいと思う。
- ・そういうふうに、どがんないとなろうかという反面、できるだけ良いところにやりたいという親もいらっしゃる。そういう方はどうかすると佐賀方面とか私立とかにやられる。
- ・それにブレーキかけるか、ブレーキかけないといけないと思うかどうか。
- ・そういうふうにして行こうという人をブレーキはかけなくていいと思う。
- ・そうするとそうしない人に負けないように頑張れと言うか、しょうがないよと言う

かどっちかしかない。

- ・議会の質問の中で、貧困と学力の問題。貧困が勉強したくてもできないような環境には何かやってやらないといけないと思う。
- ・放課後児童クラブを充実させるということもそれに結び付くと思う。
- ・放課後児童クラブというのは、一つはよしれんなことばせんごと囲い込むということ、それと今言われたような、どうしても一般的に家庭的にそういう傾向がないのを頑張れ頑張れという効果と両方あるかと思う。貧困と学力の考え方は非常に難しい。経済力のある方が高学歴になりやすいというのはあるけれども、その半分ぐらいは家庭、経済力があってもあまり学力に関心がないという人もいるけど、どうしても元々高収入の家庭自体が学力を自分で身に付けてその地位を獲得したという前提がある。
- ・公教育は頑張らないといけないところではないのかなと思う。勉強はお金を出して行けるとところに行くというふうになってしまっているようだけど、やる気、能力があれば、誰でもそういうチャンスがあるというみたいな国公立みたいのは必要だし、そこに行って頑張ればどこまでも行けるといようなことは必要と思う。
- ・日本はそういうシステムが一番良くできていると思う。
- ・ところがそれがフワッと崩れているのではないのかな
- ・それは塾化という話はある。公教育でカバーした時にわんぱくクラブみたいなものを充実してやると公営塾になる可能性がある。そこも義務教育と同じレベルに入ってくるから、義務教育延長、18歳まで義務教育しろと同じになってくる。
- ・学力については、学力調査は一部ですと、決してあれが全てではありませんと言っている。
- ・そう思う。学力テストというのはあくまでポイントの部分だけ見ることなので、一般的にどうなのかというのを判断するのは非常に難しい。
- ・ちょっと乱暴に言えば、学力のことは気にしないでいいという話だったら、放課後は他でやればいいという話に繋がっていく。片方は土曜日授業という話になっている。どの辺がどうなのかという話。父兄もあまり気にするなという方もいる。他所の地区では授業まで塾に丸投げして、そういうのをやったらどうだというの、両方ある。
- ・ここで見れば西部中 3 年生は半分以上塾に行っている。20 年前のことですけれども、隣の何とかさんが行くから塾に行きたいという気持ちで塾に行くということもある。
- ・数字が 2 年生の時と比べて 2 倍ぐらい跳ね上がっている。中体連が終わった後の今の時期、9 月に調査しているから上がる。中体連が終わったら、受験対策で塾に行き始める。ある意味行く場所があるので、それ以外の子ども達が家でどんなにしてい

るかということは考えていかないといけないと思う。

- ・集めて勉強させたら塾の代わりすることになる、それでいいのかという議論はある。
- ・片一方では帰ってきててもテレビゲームばかりしている、片一方では父兄から意見として上がってきている。そのところをどういうふうに整理をするか。
- ・子ども達を毎日引っ張り出してたら、家でテレビゲームしなくていいのでいいという話と、逆に疲れるという話と両方あるかもしれない。仲間にやっぱり入れてもらうというのは子ども達にとっては大事なこと。
- ・以前は集落で縦の社会があって、それに入っておけば、暗くまでちゃんと過ぎていた。今はそういうのがないので、スポーツ少年団に入ってみたり、塾に行ってみたりだとかそういう形で過ごして、それに行かない人が家でテレビゲームばかりという感じで、3つぐらいに分類されるのではと思う。
- ・スポーツ少年団みたいなものは、昔と違ってきた。昔は中学では中体連が中心、今はセミプロとかプロの養成みたいなものも、それはどうですか、いいと思うか。
- ・自分の進路を決めるということでは確かにチャンスは広がっていると思わないといけないのですかね。
- ・結局、中学高校で運動した人達が社会人になって、子ども達にも教えたいというのでジュニアチームができていっている。良いことではある。
- ・スポーツ少年団も結構な種目の団体があると思う。そういうバラエティが広がってくれば子ども達も自分が好きものに進める、自分が好きなものをして、放課後を過ごせるというようなことはできてくる。
- ・サッカーが得意な子が例えば鳥栖まで行って練習しているので、中学校のサッカー部員として活躍はできないということになる。学校としてはいたしかえしになっているのでは。
- ・それを教育という側面で捉えるところに、飲むか飲まないかって話。
- ・ダメとは言われない時代かなと。
- ・むしろ外に送り出す力を働かせた方がいいかどうか。
- ・小学校のレベルと中学校のレベルとを分けて考えないといけないという気もする。
- ・ならいごとはスポーツ以外もピアノ、習字、絵など、美術はどれくらいで将来役者になるならないか分かるものなのか。
- ・それは分からないというところが正直なところではないか。例えば指導者がこの子は上手に書いていると言うことは将来超大物にはならないのではないか、今は人並みに上手に書いたからといってというのは5万といる。独特でない世界に通用するようなことはなかなか難しいかも分からない。
- ・美術の方も発達段階に応じて指導をしておかないと、困ることがあるのではと思う。

私達はサイコロのような立方体の絵をすぐ書くが、中学生になって立方体に見えないという子がいる。

- 文字でも枠の中に書ききれない子どもがいる。はみ出してしか漢字を書ききれない、あるいは極端にずれるとか。
- 慣れで見えるようになると思うけど、それはある程度の段階で教えておかないと。
- その教育は義務教育のレベルなんですか？
- 日本人として、これは立法体だとか直方体だとか何か図を描いたら皆に見せる、あるいは説明をされたらこう作ったらいいですねというぐらいの感覚を持って卒業しないと、日本の物作りにとっては、大変なことになりはしないか。日本がこれだけ発展してきたということも、全国民が国語から音楽、体育まで全部習ってきて、ある程度の共通項をもって出ている。今どっちかと言うと、音楽、美術みたいなものは割とならいいと好きで好きな時に習ったらいいいというようなどころにちょっと変わっている可能性もあるのではないのか。
- 音楽美術の授業日数が減ってきた。
- 大体全体的に削ってあると思うけど、同じ1時間削るにしても、2時間しかなかったのを1時間削る、5時間あったのを1時間削るというでは大抵違う。
- 音楽美術は非常に大事な教科だということで反対はしていた。感性が磨かれにくくなっているというのはちょっと残念だなと
- 本当は総合学力というのがゆとり教育のねらいだったのでは？
- 1週間が7日で、1時間が60分は決まっているので、その範囲内で何かやるとすればどうするか、ゆとり教育すれば逆に回っていくので、削った時間を元に戻せと、こういう話ですね。それが子どものためになるんだったらそうすればいいわけで、それを先生が受け入れられないならそっちを考えればいいと、それは何でならないのだろうか。国語数学英語を重視してきたからか。
- 3科目ではダメと思う。
- 今までの何十年間という日本の教育制度がそういう流れにいつてしまっていたということのを反省しないといけないことに繋がっていく。
- 大綱には書けないけども、何かそういうのがあるんじゃないかという提言をするといいのかもしれない。
- 自分の目的とかをしっかりと持っていたら、自分の好きな道に行ってそれを生かしてできる。
- 小学生で何とかになりたいというのは、具体的に思いはいかないと思う。だから、小学生中学生それぞれ基礎学力をしっかりとつきためることが大事。中学生になったら自分の進みたい道というのがおぼろげながら出てくるだろうから、それに対応す

るような学校以外でのことも考えていけないといけないとか、段階によって違ってくるのではという気はする。

- ・少し基礎学力に軸足を置くという話になるのかな、他所の学校との比較、全国との比較もあるかもしれんけれども、基礎学力にもうちょっと軸足を置いて、音楽、美術にもうちょっと力を入れるというのも一つの考え方。
- ・底辺の子どもの底上げをすれば数字は自ずから上がっていく訳だから、そこの所が一番求められはしないかなと常々思う。
- ・底上げは絶対必要だと確かにそうだと思う。前から言っているように放課後に幾らかでも底上げをしないとイケないのかと。
- ・ちょっと引っかけりがあるって、そこでブレーキがかかっていたら、ブレーキをはずしてやれば先に行く。ちょっとしたことを与えてやるということは必要ではないのかなと思う。
- ・掛け算の九九を覚えなくて、3年生4年生となったら、一生困る。中学校になってから掛け算の九九を一生懸命練習するというのはいない。
- ・どれとどれをピックアップして、絶対要件にしていくか。
- ・掛け算の九九を6割分かっているのでもいいと、先に進むという訳にはいけないと思う。
- ・50人のクラスでどうしても覚ええないのが4、5人いたら、そこに先生は集中する訳にはいけない、そこはどういうふうにすればいいんですか？
- ・できない子を残してということをやってもらっているけど限界がある。
- ・授業そのものも複数でTTのシステムがあるので、ちょっと理解が遅れている子どもと分かっている子どもを教室で別々に分けて違った内容で授業をするということは既にやってある。
- ・TTが全てではない。
- ・例えば、放課後に個別指導を一時間やることでもよかろうと思う。
- ・マケドニアの戦い何年にあったとかは知らなくても大人になってもいいし、掛け算の九九だけはそういう訳にはいかない。他にもあると思う。
- ・掛け算、割り算、字の読み方といったことをある程度。
- ・美術ではこういう形があると6年生までには知っておかないといけないとか
- ・学力で国内でも何となくゾーニングはあるでしょう。例えば東北は強くて、本当に上げるだけだったら真似すれば。
- ・例えば放課後の特科でテスト対策の学習をさせているのではと思っている。
- ・佐賀県も言い始めたけれども、徹底と継続。それに力を入れないと上がらない。しかしどうしても時間的に限界があり、ジレンマになってしまう。

- ・地域の子どもクラブの主な活動として、今年のうちの地区のラジオ体操が始まらないなと思っていた。おじいちゃんと1年生の孫が来て、ラジオ体操はいつも公民館であっているのになと思って、そしたら家でしてきたと、今年からそうなったということだったけど、準備が大変になったのかなと思ったけど、老人パワーでしないといけないのかなと。
- ・お世話役は大変という部分がある、今までは父兄という考えでしてきているので、負担になるということがある訳でしょう。お年寄りの力を、あり余った時間と力を借りるという方向に少しシフトを変えていくことが大事なのでは。いわゆるPTAのペアレントという枠をはずして、上にじいちゃんばあちゃんの英語でグランドというGを付けてGPTA、そういう時代になっているのでは。
- ・今年も異世代交流事業という形で予算が付いている。
- ・どこで主催するかとなったら地区の公民館あたりが主催してする。公民館の負担をなるべく軽くするようなシステムを考えて、年寄りパワーを子どもの教育に。
- ・おっしゃるとおりで、我が家の子どもは東京福岡にいて孫にかまえないと。今それをたまご対策と言っている、他所の孫だから他孫。
- ・異世代交流事業は、さが段階チャレンジ交付金で老人クラブと子ども会に働きかけて行う。手を挙げた老人会と子ども会で交流する事業を下半期で行うようになっていきます。
- ・赤ちゃん登校もある、少しずつ何かをセンターにしなごら、結び付こうという動きは始まっている。
- ・後かたらいの方で子育て支援センターと高齢者大学ゆめさが大学との交流をする。
- ・地区のお祭りの時新しい縄でしめ縄作る。年寄りしか知らないのでは、若い人、子ども達にも受け継げるよう皆でしょうかと話をした。
- ・個別のクラブ活動であの先生が来られてから上手になったというのはあるけど、逆に変わったらダメになったというのがちょっと困る。
- ・社会体育ができる人はやるが、できる人がいない時が一番大変。
- ・人事は、一斉に音楽の先生も野球の監督も何とか変わられたらどうしようもないということを知って人事はするんですか？それとも科目だけですか？
- ・かなり他の要因は配慮する。
- ・その教科を持っている人と同じ教科の人が来た時にその人がその顧問になれるなら一番良いけど、そうばかりとはならない。
- ・校長もこの人を出すなら剣道の顧問を是非やってくださいと言う。
- ・知徳体全体で作っていかないといけないことなので、そういうことを考えて、人事します。

- ・例えば音楽はあの人、陸上はあの人とか色々ある。授業もあるのか？
- ・子ども達が分かりやすい授業をするというのはあると思う。
- ・あの先生が来てから成績の良くなったという評判は広がるのでは。
- ・親が好きな先生は宿題をいっぱい出す先生
- ・親が良い先生と思うのと、子どもが良い先生と思うのと、校長先生が良い先生と言うのはまた違うんだな。
- ・好かれない先生もいた方がいいし、厳しい先生もいた方がいいし、優しい先生もいないといけない。
- ・校外で事故が起きた時学校はどういう対応しているのか。この活動を支援するというのはいいけど、何か怪我したとか何かあった時にどういうふうなことを頭に置いて、どういう覚悟を。
- ・社会体育の方はそれなりの保険に加入し、部活動の方はちゃんとスポーツ振興の方で入っている。
- ・そうするとマイナースポーツの方がつらい。たった一人の部活みたいな。
- ・子ども達だけで何かをやっていたとか。
- ・顧問はあまり知らなかったみたいな話があったりするとつらい。
- ・しかしそういうのから、少しサークルが盛んになって組織になっていくのかも分からない。

5 その他

橋村総務部長 どうもありがとうございました。学校以外での過ごし方で学校での話もいっぱい出たところですが、それだけ難しいのかなというのが今日の印象じゃないでしょうか。次回の開催日ですが、11月4日午後2時30分ということでよろしいでしょうか、1時からが教育委員会ということになります。今日はお忙しい中に貴重な時間をいただきましてありがとうございました。

(11:42)

- ・次回開催日 11月 4日(水) 14時30分から
テーマ「文化・スポーツ」